1．　調 査 報 告 概 要 表

作成日　平成 21年　3月　1日

【評価実施概要】

事業所番号	4270203088
法人名	㈲西風会
事業所名	グループホームゆたんぽ・喜笑
所在地	長崎県佐世保市吉井町直谷１２７８－１ （電　話）0956-64-4712

評価機関名	特定非営利活動法人　　福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町５番３号　大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成２１年　２月１３日

【情報提供票より】（平成21年1月1日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成18年　3月　1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	14　人	常勤　13　人，　非常勤　1人，　常勤換算13.7人	

（２）建物概要

建物構造	鉄骨木造　造り
	1階建ての　1　階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	15,000　円		その他の経費（月額）	10,500　円
敷　金	有（　円）		○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） ○無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　650　円			

（４）利用者の概要（　2月13日現在　）

利用者人数		17　名	男性　2 名	女性	15 名
要介護１		2　名	要介護２	5	名
要介護３		6　名	要介護４	4	名
要介護５		0　名	要支援２	0	名
年齢	平均	86.5 歳	最低　75 歳	最高	99 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人医院　愛生会、小林歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地内に位置している。運営理念「利用者の能力を最大限発揮できるように、また、地域社会の一員として生活できるように支援すること」は職員一丸となって実行され、犬散歩仲間や、自治会加入、敬老会参加など地域の中にとけ込んでいる。地域イベントに参加する事で利用者が笑顔になってもらうように支援している。職員も利用者の残存能力を重視しており、「ゆっくり」「笑顔」といった介護姿勢で日々接している。管理者は職員育成に積極的であり研修参加支援や信頼関係作りを行っている。利用者はゆっくり自らのペースで暮らす中で、生き生きと趣味のパッチワークやパズルや脳トレを行ったり、他ホームの知人に会いに出かけたりされている。介護計画の項目は日々の介護の中で確認され、毎月のモニタリング、介護計画へと活かされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価内容は職員へ伝えられ、改善項目にも全員で話し合い取り組んでいる。例えば研修内容の共有は報告書作成と資料の回覧を徹底するように取り組まれている。また重度化に関しては現在も継続中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価の評価の意義を全員が理解している。今回の自己評価は管理者がまとめた後、全職員で回覧し付け加え内容について話し合われ作成されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は２ヶ月に一度開催され、地域包括支援センター職員、家族、近隣住民、民生委員、管理者、職員の参加で行われている。ホームの行事や外部評価、避難訓練の協力依頼、認知症キャラバンメイト、質疑応答など充実した会議を開催されている。運営規則、議事録が作成されその内容は職員へも伝えられ、介護に活かせるように話し合いされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	不満・苦情の外部窓口については契約時に説明し、運営規定にも記載されている。ホーム内に意見箱を設置しているが、面会時等に直接意見を聞くことが多い。また行事参加後、家族同士の意見交換の場を設けており、その内容は職員へ伝え話し合いの場を持ち日々の介護に活かされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に加入し、夏祭り、敬老会、町内清掃等に、積極的に参加している。またホームが民家の中にあるので、散歩や買い物の時など近隣の人々との交流も自然におこなわれている。

2. 評 価 結 果 （ 詳 細 ）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やすらぎ、生き生き、笑顔」を理念とし、利用者の今までの生活歴ので持っている能力の発揮や機能の衰えを防ぐよう、また近くの開かれた地域社会一員として生活できるように支援すること目指して作成され職員と話し合われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の目にとまりやすいところに理念を掲示し朝の申し送りや月一度の会議の時に管理者だけでなく職員全員で日々の介護と理念の確認を行っている。その中で年とともに衰えていく機能を、なるべく残すための支援をおこなっている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、夏祭り、敬老会、町内清掃等に、積極的に参加している。またホームが民家の中にあるので、散歩や買い物の時など近隣の人々との交流も自然におこなわれている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を全員が理解しており、前回の改善項目にも全員で取り組んでいる。また、玄関の近くに外部評価の結果が置いてあり、外部の人にも見てもらえるようにしている。今回自己評価は管理者がまとめ全職員に回覧し付け加え話し合われ作成されているが、各職員による作成が望ましい。	○	自己評価を各職員が作成する事により、個々の職員の介護現場の振り返りのきっかけ作りになる事を希望する。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は２ヶ月に一度開催され、地域包括支援センター職員、家族、近隣住民、民生委員、管理者、職員の参加で行われている。行事や外部評価、避難訓練の協力依頼、認知症キャラバンメイト、質疑応答など充実した会議を開催されている。運営規則、議事録が作成されその内容は職員へも伝えられ、介護に活かせるように話し合いされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の介護保険の更新手続きや入退居者の報告の際に町担当の職員との情報交換・意見交換等を直接出向いて行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に短い時間であっても職員が同席し、近況報告をおこなっている。また写真についても、ホーム内の何ヶ所にも掲示してあり、日々の様子がわかる。金銭管理は領収書・台帳のコピーを渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・苦情の外部窓口については契約時に説明し、運営規定にも記載されている。ホーム内に意見箱を設置しているが、面会時等に直接意見を聞くことが多い。また行事参加後、家族同士の意見交換の場を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	２つのユニット間での職員の異動はほとんど行われないが、職員の利用者との交流が普段よりあるため、急な介護支援でも利用者へのダメージはない。管理者は職員が働きやすい環境作りと信頼関係作りを行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症やリハビリなどの外部研修に参加しており、ホームで報告や実践をしたりしている。研修資料は回覧し、サインを書き込むようにしている。外部研修を受ける機会をつくるため、シフトの組み換えや、職員の段階に応じ参加を促したり行っている。内部研修は全員がノートを1冊ずつ作り、転倒、排泄等について話し合い、それぞれのノートに勉強したことを書き込んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は県北地区の連絡協議会の研修に参加し、グループホームと交流を持ち介護サービスと職員の向上をはかっている。佐々地区の他グループホームとは職員の相互訪問等を通じて情報交換や意見交換をおこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に見学に来てもらい、その後管理者とケアマネージャーを同行して相手の家を訪問するなど行い、生活歴や習慣などの情報を収集している。集団に溶け込めるように、職員は利用者同士の会話を楽しめるようレクレーションなど雰囲気作りを工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が花札、トランプ、貼り絵、パッチワーク等を一緒にすることで、賑やかに楽しそうに暮らしている。食事、洗濯、買い物等についても利用者と職員が一緒にする事で支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の利用者に対する声掛けや、職員と利用者との会話が多くみられる。そういう日々の会話の中で利用者の希望や意向の把握に努めており、職員間では常に情報交換したり、個人記録や申し送りノートに記録している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画はサービス担当者会議を行い作成されている。また本人の意向を聞いて介護計画を作成している。毎月のモニタリングの結果内容も家族へ伝えられ、介護計画への要望も聞いている。作成された介護計画は、家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期３ヶ月長期６ヶ月の見直しを行っている。毎月のモニタリングと日々のケアプラン実施記録を基に介護計画の見直しを行っている。また病院からの指示等があった場合、ケアマネージャーに伝えてその指示も加えたケアプランを新たに作成している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望で、冠婚葬祭の外出支援を行ったり、ドライブを兼ねてお墓参りや友人のいるホームへ一緒に出かけるなど柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はかかりつけ医の継続受診がなされており、ホームでは通院支援もされている。ホームの協力医とは月２回の定期受診の他、緊急時や往診も対応されている。利用者が受診した場合は、家族への連絡もなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは重度化した場合、家族・医師・職員と共に話し合いがなされその都度、個別に応じた書類が作成されている。終末期・看取りに関して利用開始時などに口頭で説明はされているが、指針が作成されていない。	○	終末期・看取りに関する統一した指針を家族、職員と共有するために、書類の整備を希望する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は守秘義務の誓約書を作成し、家族からは個人情報に関する同意をもらっている。個人記録などは事務所にて外部の目に触れないところに保管されている。職員は利用者への言葉遣い、羞恥心など気がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの大まかな日程はあるが、利用者の生活リズムに合わせた起床・食事など行う事ができる。また、日中もリビングでテレビを見たり、レクレーションをしたり思い思いに過ごせるように、職員は利用者に希望を聞いている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞き、その日に立てている。準備では、エプロンをして手伝う利用者がいたり、皮むきや米研ぎなど楽しんでいる。食事は職員も一緒に同じ物を食べながら見守り支援している。利用者の食事スタイルに合わせセッティングし利用者同士ゆっくり楽しんで食べれるように工夫されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日・時間の決まりはあるが、利用者の体調や希望にあわせている。入浴拒否される場合も、強制はせず、時間をおいたり、別の利用者に声をかけてもらったりその都度対応している。湯は各利用者の好みの温度に合わせ気持ちよく入浴できるように支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を基に利用者にあった役割を持ってもらっている。洗濯タタミや、配膳、片づけなどの家事作業や草むしりや花壇の手入などである。また日々の会話の中に計算やパズルなどを取り入れ、楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	犬の散歩を日課にしてる利用者や、天気や体調を見ながら散歩や買い物など全利用者が行えるように声をかけながら行っている。また、花見や海へドライブなど季節の行事や月１～２回の外食など、外出する機会を多く持っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは夜間以外は施錠されていない。職員はリビングでの見守りを中心にし、外に出られた場合も、後ろからそっと見守っている。地域住民の協力ももらっており、近所のコンビニとも連携がとれている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年２回の消防訓練を行っている。夜間想定の避難訓練は利用者にも伝えられ行われている。運営推進会議を通じ地域住民にも協力を求めている。緊急連絡網等もある。自然災害時の避難備品の準備や、台風時は職員が多めに残る体制をとっている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は生活記録に記載されている。一日の水分量の目安があり、食事以外のおやつ時や入浴時や居室での摂取を行っている。また病院検査時の診断により水分や食事量を対応している。献立は前回までのメニューを基に利用者の希望を盛り込みながらバランスを調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや壁面には季節の飾り付けや利用者の作品、写真などが飾られている。リビングダイニングはゆったりと配置され、利用者が思い思いに動けるようになっている。浴槽やトイレ、玄関はバリアフリーに対応されており、利用者も自身の能力を発揮しながら介護支援を受けられるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの家具や仏壇などが持ち込まれており、飾り付けや収納場所、ベッド周りなど各々の思うように配置してもらっている。喚起、温度の調整も職員が利用者目線で行っている。		

※ ▒ は、重点項目。